

「学生と実践的に創造するコロナ時代の教育」

西山雄二

(人文学部・フランス語圏文化論)

2020年12月4日（金） 15：00～17：15

「学生と共に考える ウィズコロナ時代の大学教育と学生支援」

1. 人文社会学部・新入生向けの勉強会（4月）
2. 前期・教養科目「人間・文化・社会」（5-7月）
3. 1年生向け 学生証配付登校日（2020年8月1日）
4. 人文社会学部1年生による夏休み自主勉強会（2020年9月1日）
5. 後期・教養科目「フランス語圏の文化」（10-1月）

1. 人文社会学部・新入生向けの勉強会

4月初旬、人文社会学部の新入生のうち（220名）有志らが、教員に事前に読むべき基本文献のアンケートを実施。

教員有志にて、自主的勉強会をオンラインにて組織。

他学部も含めてのべ60名ほどの学生の参加。

- 1) 9日（木）雑談会
- 2) 12日（日）西山雄二（フランス語圏文化論）「疫病と人文知」
- 3) 16日（木）福岡麻子（ドイツ語圏文化論）「災厄と文学」
- 4) 20日（月）杉田真衣（教育学）「多様な性を生きているわたしたち」
- 5) 23日（木）深山直子（社会人類学）「先住民と環境問題」
- 6) 27日（月）大貫俊夫（歴史学・考古学）「14世紀の危機：天候、ペスト、ユダヤ人」

人文社会学部・新入生向け勉強会

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。

今日は初回なので、接続に時間がかかる方もいると思います。

20：10頃からゆるやかに始めましょう。

接続した方は、つないだままで待機しておいてください。

本日はお試しで、自己紹介・意見交換をします。

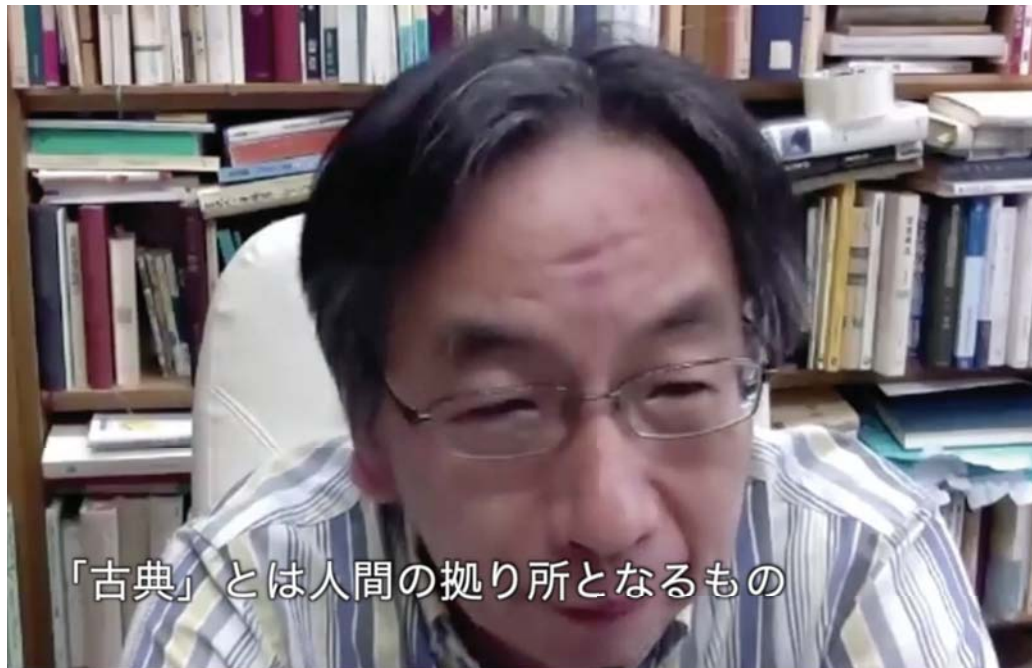
飲み物・お菓子持参で、ゆるやかにどうぞ。



2. 前期・教養科目「人間・文化・社会」（オンライン 330名受講）

人文社会学部提供のオムニバス形式で、今年のテーマは「古典から学ぶ」。

教員の発表、司会役の私との対談、質疑応答による立体的な構成。



工夫1)

授業後、アフタートークとして、教員らが雑談を10分ほど配信した点も効果的。視聴する学生らも休み時間の雰囲気を楽しむことができた。



工夫2

7/6は社会学の宮台真司先生とともに、「**コロナ禍と日本社会**」と題して特別回。目の前にある感染症の危機について、この危機からみえてくる日本社会の特質について、授業で考える機会を設けた。

A man with short brown hair, wearing a plaid shirt, is shown from the chest up. He is gesturing with his right hand, palm facing forward, with fingers spread. The background is a lush green field with a dense line of trees in the distance under a clear sky.

コロナ禍では 民主的で水平的な情報共有よりも
統治権力主導の垂直的な生体監視が有効かもしれない

工夫3

最終回7/27では、**討論会「前期のオンライン授業、後期の大学」**を実施。

教員4名、教務係長、人文社会学部一年生7名が登壇。

議論は授業後も続き、計3時間に。

学生らの生の声を聞くことの重要性を再確認。



3. 1年生向け 学生証配付登校日 (2020年8月1日) の動画作品 (9分)



4. 人文社会学部1年生による夏休み自主勉強会 (2020年9月1日)

対面とリアルタイム配信 (Zoom) によるハイフレックス形式

学生6名が発表。参加は対面で30名、配信で30名 (そのうち教員は10名)。



5. 後期・教養科目「フランス語圏の文化」 210名受講

学生にアンケートで意見を聞いた上で、基本的にオンライン、3週間に1度のペースで対面とリアルタイム配信によるハイフレックス形式。

10/5 第1回 導入

10/12 第2回 フランスの教育——哲学の教育と大学入試

10/19 第3回 フランスの家族——結婚・離婚、PACS、出産・子育て

10/26 第4回 原子力

11/9 第5回 社会運動

11/16 第6回 外国語学習 ゲスト講師＝志村響（語学塾こもれび塾長）

11/23 第7回 フランスの移民

11/30 第8回 共和制と君主制 右翼／左翼

12/7 第9回 死刑

12/14 第10回 フランス人学生との対話

12/21 第11回 フランス人学生との対話

1/4 第12回 フランスの美術——近代絵画の誕生

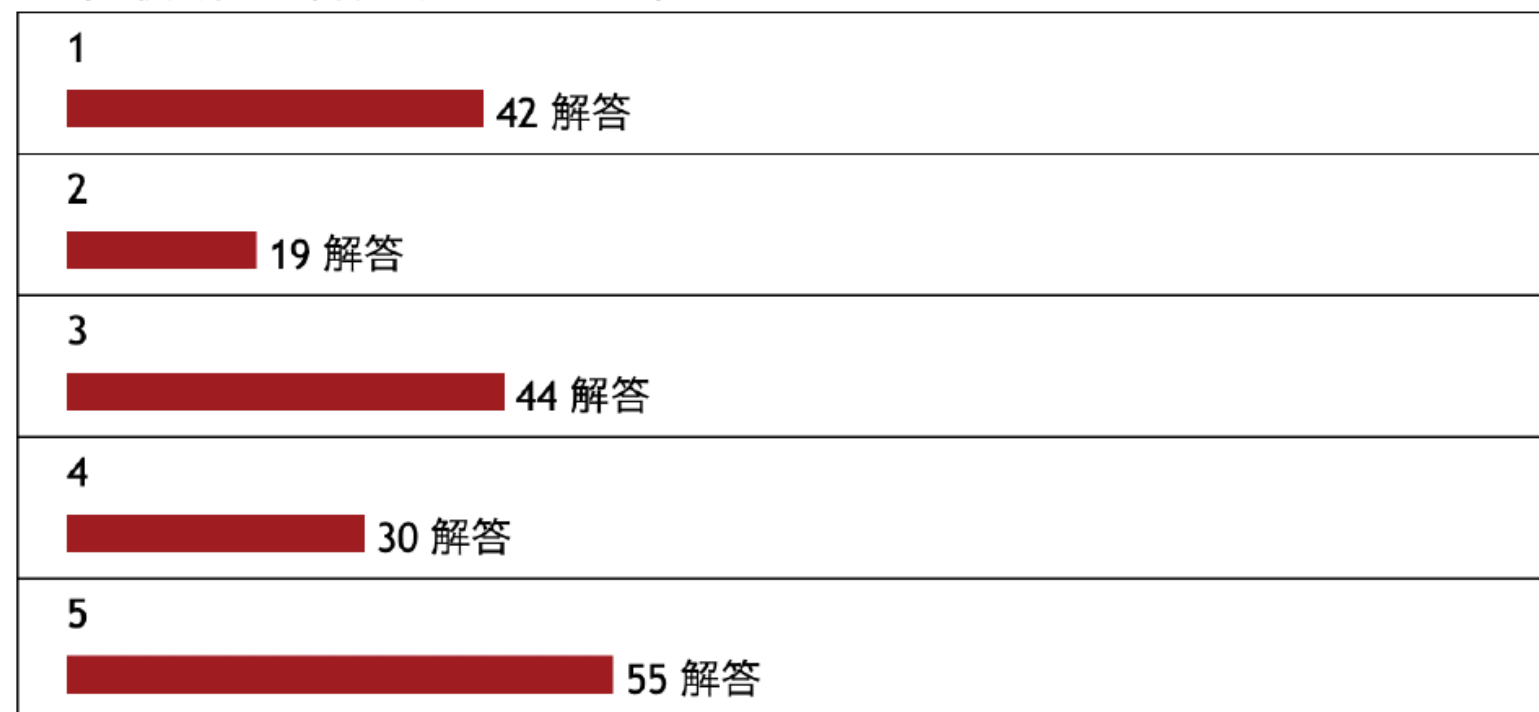
1/20 第13回 フランスの食文化

1/27 第14回 景観の創出と保全

「あなたは本講義をどんな方式で実施する方がよいと思いますか？」

- ・対面のみ、あるいはオンデマンド配信のみの方式ではおこないません。
- ・たとえば、「毎週、対面+リアルタイム配信」にした場合、対面を受けた後、毎週1回配信を行います。

1. 毎週、対面+リアルタイム配信
2. 隔週で（2週間に1回ペース）、対面+リアルタイム配信
3. 何回か（15回中3-4回程度）、対面+リアルタイム配信
4. （東京以外に在住のため）オンラインのみ
5. （登校可能な距離に住んでいるが）オンラインのみ

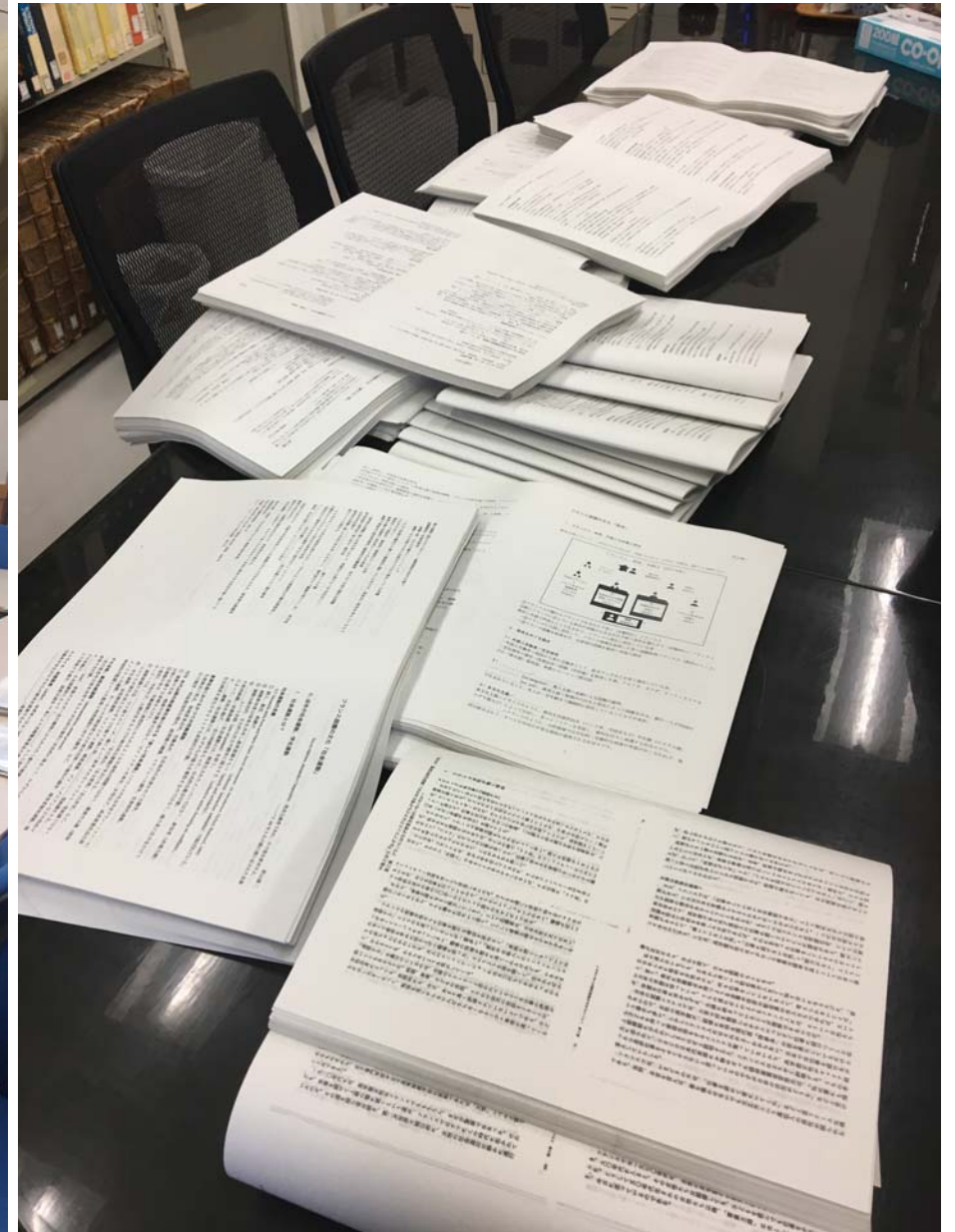


総解答数 190



工夫1

希望者（約150名）に
レジュメ一式の郵送





工夫2

11/16 外国語学習

ゲスト講師=志村響

(語学塾こもれび塾長)





グランゼコールに失敗した場合
大学二年生に編入できるよね？

工夫3

フランス人留学予定者
との対話



成果と課題

1) 学生（新入生）の自主性や創造性

新入生は自発的にLINEグループを形成しており、困難な状況でも情報共有し交流するたくましさをもっている。彼らの自主性や創造性に後押しされるようにして、こうした授業や活動を成功させることができた。

2) 技術上の改善

対面と同時配信のハイブリッド形式の授業をどこまで効果的に実施できるのか。

3) キャンパスライフの確保

授業以外のキャンパスライフを（授業内で）いかにして保証するか。

4) 東京と地方

首都圏と地方（東京を忌避する感覚は根強い）の分断状況をいかに緩和していくのか。

5) 教育活動のアーカイブ化

オンライン授業による教員の自己FD効果。